

# 仙台城

## 仙台城の石垣

近世城郭では石垣を多用するのが一つの特徴であるが、仙台城は自然地形を最大限に利用した山城であるため、石垣は比較的少ない。それでも随所に石垣が築かれており、なかでも本丸北壁の石垣は、最大高約17m、全長約170mに及ぶもので、「切込はぎ」(のみやたがねで積石を削り、互いに密着させて組み合わせる最も高度な石組技法)による石垣としては全国でも有数の規模と曲線美を誇っている。

なお、この本丸北壁の石垣については昭和35年頃から変形が進行しているため、現在、本格的な解体修理が計画されている。



## 仙台城<sup>おおもん</sup>大手門

大手門は、三ノ丸の北西に位置し、東面して建てられていた仙台城の正門である。桃山様式を伝える貴重な門建築として昭和6年国宝に指定されたが、昭和20年の仙台空襲により南隣の脇櫓や北隣の多門塀とともに焼失した。間口約19.5m、奥行き約6.7m、高さ約12m、入母屋造瓦葺の屋根に鯨を戴く堂々たる二階建の門であった。正面の桁には漆下地の上に金箔を張った菊や桐の彫刻を施し、2階前面には蓮子窓を、側面・背面には火灯窓を設けていた。

なお、現在の脇櫓は昭和40年に再建されたものである。



松に山鳥図 仙台市指定有形文化財(二ノ丸障壁画・東東洋作) 仙台市博物館蔵



扇面図 宮城県指定有形文化財(本丸障壁画) 仙台市博物館蔵



本丸釘隠 仙台市博物館蔵



宮城県知事公館正門(旧仙台城門) 宮城県指定有形文化財



旧仙台城板倉 宮城県指定有形文化財



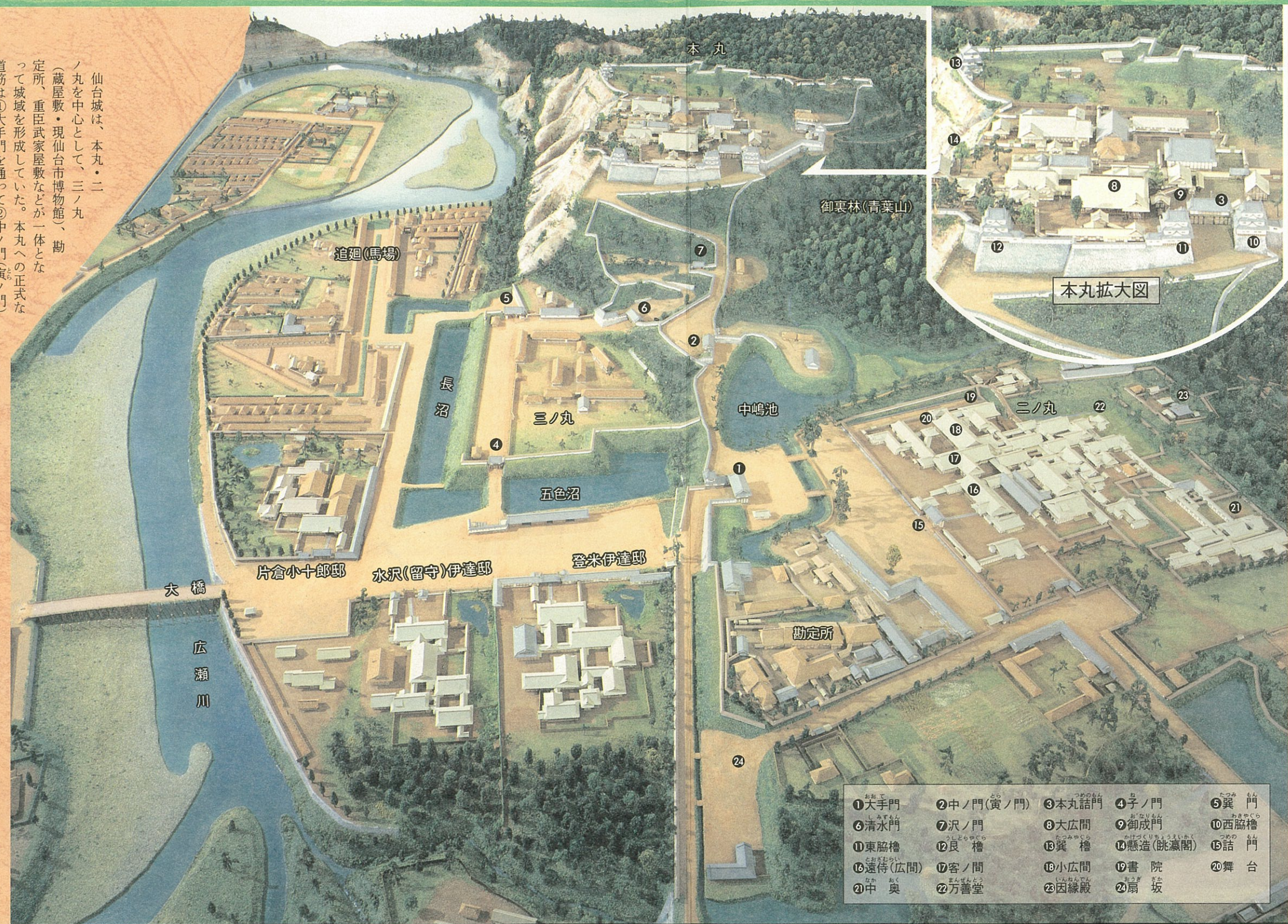
仙台城は、伊達政宗が慶長五（一六〇〇）年の関ヶ原の戦い直後に、城下町仙台とともに築いた居城。青葉山の自然地形を巧みに利用し「青葉城」とも別称されるこの城は、南側は深さ約四〇mの竜ノ口峡谷、東側は広瀬川に落ちる深さ約六四mの断崖に守られた天然の要害で、さらに尾根続きとなっていて西側には三条の大規模な堀切と土塁を、比較的傾斜がゆるやかな北側には高さ約一七mの石垣を築いて防御を固めている。本丸の規模は東西二四五m、南北二六七mと諸大名の城郭の中でも最大級で、



慶長一六（一六一一）年仙台を訪れたイスパニアの使節ビスカイノは「この城は日本国で最も優れ、最も堅固な城の一つ」と賞賛している。当初は本丸のみの山城であったが、二代藩主忠宗は山麓部（現東北大学川内キャンパス内）に二ノ丸を造営、以後この二ノ丸が藩政の中心となっていた。本丸には天守閣が設けられなかったが、華麗な障壁画や欄間彫刻に彩られた大広間（板敷部分を含めて四三〇畳）や東側の断崖に面して造られた懸造、さらに各種の櫓や門、能舞台、書院など、上方から招いた

当一流の木工棟梁・工匠・画工らによって作られた桃山文化の集大成といえる建物が偉容を誇っていた。

これらの建物群は江戸時代の度重なる災害に加え、明治維新後の取り壊しやその後の火災により失われた。さらに、唯一仙台城の面影を伝えていた国宝の大手門及び脇櫓も昭和二〇年の仙台空襲で焼失したため、現在ではわずかに本丸北側の石垣のほか、西側の堀切や土塁などが往時の仙台城を偲ぶ貴重な遺構となっている。



- |           |            |        |            |        |
|-----------|------------|--------|------------|--------|
| 1 大手門     | 2 中ノ門(黄ノ門) | 3 本丸詰門 | 4 子ノ門      | 5 巽門   |
| 6 清水門     | 7 沢ノ門      | 8 大広間  | 9 御成門      | 10 西脇櫓 |
| 11 東脇櫓    | 12 良櫓      | 13 巽櫓  | 14 懸造(眺瀛閣) | 15 詰門  |
| 16 遠侍(広間) | 17 客ノ間     | 18 小広間 | 19 書院      | 20 舞台  |
| 21 中奥     | 22 万善堂     | 23 因縁殿 | 24 扇坂      |        |

仙台城は、本丸・二ノ丸を中心として、三ノ丸（蔵屋敷・現仙台市博物館、勸定所、重臣武家屋敷などが一体となつて城域を形成していた。本丸への正式な道筋は①大手門を通過して②中ノ門(黄ノ門)を経て③本丸詰門にいたるもので、これとは別に三ノ丸を経由する道筋として④子ノ門、⑤巽門、⑥清水門、⑦沢ノ門を通るものがあつた。

本丸には⑧大広間を中心とした建物群があり、詰門を入った東側には將軍家や天皇家を迎えたときのみに使用する⑨御成門があつた。⑩西脇櫓、⑪東脇櫓、⑫良櫓、

ノ間、⑬小広間、⑭書院が連続する配置となつており、小広間と中庭を挟んで設けられた⑮舞台では能などが舞われた。⑯中奥は大奥とも呼ばれた男子禁制の場であり、西端には先祖を祀る⑰万善堂⑱因縁殿があつた。

年	出来事
慶長 五	伊達政宗、仙台城の縄張りを行う（築城開始）／千代を仙台と改める
慶長 六	仙台橋（大橋）できる
慶長 七	仙台城一応の完成をみる
慶長 一〇	仙台城大広間できる
寛永 一	政宗死去、忠宗跡を継ぐ
寛永 三	二代忠宗、二ノ丸の建設開始／若林城から一三の建物を二ノ丸に移築
寛永 五	若林城を取り壊す／二ノ丸完成
寛永 七	大地震のため本丸城壁、櫓など崩壊
延宝 元	四代綱村、二ノ丸を大改造（一七〇四まで）
文化 元	二ノ丸、中奥ともに雷火のため全焼
弘化 三	九代周宗、二ノ丸を再建
文久 元	追廻から出火し、片倉・水沢伊達・佐沼直理などの重臣屋敷が全焼する
明治 元	戊辰戦争／仙台藩降参／仙台城公収され仙台藩二八万石となる
明治 八	東北鎮台を国分町から二ノ丸跡に移す
明治 一五	本丸大広間などを全て壊し、民間に払い下げる
明治 一九	仙台鎮台本営の火災で、二ノ丸建物のほとんどを焼失する
明治 二五	仙台鎮台を第二師団と改める
明治 二七	大橋の鉄橋が完成する
大正 九	本丸跡に招魂祭殿ができる
大正 一四	寛ノ門を壊し、部材を新坂の師団長官邸（現知事公館）正門の建築用材に転用する
昭和 六	青葉山自然公園開園、大手門の出入を自由化
昭和 一〇	仙台城大手門、脇櫓国宝に指定／八木山橋完成
昭和 一三	伊達政宗騎馬像が完成
昭和 一九	大橋が鉄筋コンクリート橋になる
昭和 二〇	招魂社が県護国神社と改められる／詰門から八木山橋への道路が開かれる
昭和 一九	政宗騎馬像、戦争に伴う金属回収のため供出、藩祖出陣と称して壮行式が行われる
昭和 二〇	仙台空襲により大手門、脇櫓などが全焼／太平洋戦争終る／米軍、二ノ丸師団司令部陸軍用地を占領。巽門破却、中嶋池、瓢箪池などが埋め立てられる
昭和 三三	二ノ丸跡が米軍より返還される
昭和 三六	東北大学の敷地として造成開始
昭和 三九	東北大学理学部附属植物園開園
昭和 四〇	三ノ丸に仙台市博物館が完成する
昭和 四七	政宗騎馬像が再建される
昭和 四七	大手門脇櫓が復元される
昭和 四七	青葉山が国の天然記念物に指定される

### 仙台城略年表